

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-136	高等学校	家庭	家庭基礎	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	家基 007-902	新Agenda 家庭基礎		

1. 編修の基本方針

教育基本法第二号の各号の目標を達成するため、それぞれ以下の点を基本方針とし本書を編修した。

教育基本法第二条	方針
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	・家庭科の学習内容と私たちの生活や地域、社会との関わりのなかにおける課題や問題点などを扱った。 ・テーマを理解するためのキーワードとなる重要用語部分をゴシック体とした。また、各テーマの紙面下部に各テーマの関連用語とその説明を扱った。 ・教科内の他分野や、他教科との関連が分かるリンクアイコンを設けた。
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	・人権を前提とした家族や個人の在り方の多様性に配慮した内容を取り上げた。 ・課題を主体的に捉え、考えたり調べたりまとめたりするなどの実践活動を扱った。
第3号 正義と責任，男女の平等，自他の敬愛と協力を重んずるとともに，公共の精神に基づき，主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養うこと。	・写真やイラストを載せる際には，可能な限り男女が偏らないように配慮した。 ・多様な人々が共に生きている社会のなかで，すべての人が人権を尊重され，共に活躍・成長できる社会をめざすことの重要性について扱った。
第4号 生命を尊び，自然を大切にし，環境の保全に寄与する態度を養うこと。	・見返しページ等で，地球環境の現状や持続可能な社会に向けての取り組みを扱った。また，章末では「明日へつなぐ視点」として各章と関連する持続可能性における課題を扱った。
第5号 伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	・諸外国の現状や課題と関連づけた題材を各所で扱った。 ・食・衣・住生活を中心に伝統文化や地域のつながりなどを扱った。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
テーマQ&A	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うため（第1号）、各テーマの課題や問題を Q&A 形式で考え、さらに資料とその解説文で理解を深められるようにした。	p.16,20,22など
Today' s Topic・Column	正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うために（第3号）、各テーマと関連する社会的課題やその解決に向けた具体的事例や活動例などを扱った。	p.13,14,15など
アプローチ	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うために（第1号）、考える・話しあう・調べる・体験するなどの探究・実践活動を扱った。	p.12,14,18など
プラスkeyword	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うために（第1号）、学習内容と関連する用語を各テーマのページ下部で取り上げ、社会の動向と関連づけて説明した。	p.14,18,20など
確認	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うために（第1号）、学習内容を確認する箇所を各テーマ末のページ下部に設けた。	p.15,17,19など
各章末	・左ページは「明日へつなぐ視点」として、持続可能な社会へ向けての社会の動向や課題を取り上げ、あわせてその課題解決の取り組みを掲載した（第4号）。右ページでは、職業及び生活との関連を重視し、持続可能な社会に向けた課題解決をライフワークとする人のインタビュー記事を掲載した。（第2号）。	p.36～37,p.64～65, p.84～85など
章末アプローチ	・防災や住まい、共生視点、金融教育などさまざまな題材と家庭科を関連づけ、本教科書の各分野で学んだ知識を横断的に活用する課題解決特集ページを設けた。（第1号）	p.34～35,p.164～165,p.192～195

●章ごとの特色

図書の構成・内容		特に意を用いた点や特色	該当箇所
1章	自分・家族	・個人の尊重・男女平等の観点から，個人の多様性や人権の保障などを扱った。（第2・3号）	p.12～27 など
		・職業と生活の関連について，日本の労働の現状やワークルールなども含め解説した。（第1・2号）	p.28～31
2章	子ども	・子どもの心身の発達や生活，育つ環境などについて，こんにちの子どもを取り巻く状況を踏まえながら解説した（第1・3号）。	章全体
		・親となることの意味と共に，子育てにおける男女の協力，親や家族だけではなく地域や社会で子育てを支援することの重要性を扱った（第3・4号）。	p.56～63
3章 4章	高齢者 社会福祉	・高齢期の心身の特徴や生活を踏まえた上で，高齢者を取り巻く社会の課題について考え，家族・地域・社会それぞれが果たす役割の重要性を扱った（第1・3号）。	章全体
		・共生社会，ノーマライゼーションや社会福祉を全体的に理解できるよう，多文化共生やボランティア活動など幅広い観点から扱った（第3号）。	章全体
5章	食生活	・食事と健康に関して自分の身の回りの課題から社会的な課題まで幅広く考える視点から，食生活の変化などの個人の食生活の問題を先に学習し，続いて栄養，食品，調理等に関する基礎的・基本的な知識や持続可能な食生活における課題などを学ぶ構成とした（第1・4・5号）。	章全体
		・生活における自立をめざし，調理実習では，イラストを多用し手順を丁寧に解説した（第2号）	p.114～125
6章	衣生活	・生産者・消費者も含めた，持続可能な衣生活を送るための視点を理解できるよう，インクルーシブデザインやフェアトレード，エシカルファッションなどを取り上げた。（第4・5号）。	p.128～129, p.144～147 など
		衣服の持つ機能として，伝統や技術などの文化をはぐくむ機能についてふれ，伝統的な染色の技術を紹介した（第5号）。	p.130～131, p.134 など
7章	住生活	・自主・自律の観点から，ひとり暮らしの際の住居選びから住居の条件を考えさせた（第2号）。	p.150～151
		・快適に暮らすための工夫や環境負荷をかけない住生活と関連づけて日本の伝統的住居を扱った（第5号）	p.160～161

8 章	消費・環境	・持続可能な社会の形成に向けた主体的な行動が求められている社会状況に配慮し、消費者市民社会の実現を重要な目標に置き、解説した（第1・4号）。	p.184～189 など
		・デジタル社会と消費者の特集ページを設け、実践活動を通じて生徒が、インターネットと消費生活における諸課題を主体的に考えられるよう配慮した（第2号）。	p.190～191

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

学校教育法第五十一条の各目標を達成するため、以下の点に留意し、本書を編修した。

- ・今後の生活者として最も重要な視点である「持続可能な社会」の実現に向けての世界的な取り組みを紹介し、さらに統計資料を中心とした日本の現状を提示することによって、持続可能性に関わる諸問題を自分たちの課題としてとらえる態度を養えるようにした。
- ・家庭科と日常生活との関連をさまざまな題材で示し、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養えるようにした。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表，配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-136	高等学校	家庭	家庭基礎	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	家基 007-902	新Agenda 家庭基礎		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1. 生活を中心とした家庭科の基本的学習要素を掲載した上で，さらに時事的・社会的な問題を取り上げた。
2. 全章を通じて持続可能性や環境問題などSDGsの視点を取り上げた。また，その関連で人権を前提とした家族や個人のあり方の多様性に配慮した。
3. 各テーマを2または4ページ単位のテーマ形式とし，具体的な生活課題とそこで学ぶ内容との結びつきを生徒が理解しやすいようにした。また，各テーマの冒頭（テーマQ&A）では学習の動機づけとなるような資料や図表（データ）を扱い，各テーマの課題を明確にした。
4. 問題解決型学習などに活用できる題材（テーマに関連する課題や話題を扱う「Today's Topic」「Column」，探究・実践活動を扱う「アプローチ」，テーマ末「確認」，章末「明日へつながる視点」，「インタビュー」，「章末アプローチ」など）を豊富に扱い，学習を深められる教科書とした。
5. 教科横断的な視点に関連して，他教科や他分野の学習と関連する部分は関連が分かるよう配慮した。（教科横断的な視点）
- 6 新指導要領の「生活設計」の重視や「職業教育の充実」の観点と関連して，各章と関連するフィールドで社会的課題に向き合い課題解決にあたって活躍する人を取り上げた。

2. 対照表

図書の構成，内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
課題解決に向けて実践してみよう	A（1）ア，イ	p. 6-7	2
生活設計—人生100年時代をデザインする—	A（1）ア，イ	p. 8-9	
1 章 自分，家族			10
01 これからをどう生きるか	A（2）ア，イ	p. 12-15	
02 青年期の自立	A（2）ア，イ	p. 16-19	
03 社会の変化と家族	A（2）ア，イ	p. 20-21	
04 家族，人生，生き方と法律	A（2）ア，イ	p. 22-25	
05 多様な課題を抱える家族，家庭	A（2）ア，イ	p. 26-27	
06 持続可能な生活と仕事	A（2）ア，イ	p. 28-31	
07 多様な生き方を保障する社会へ	A（2）ア，イ	p. 32-33	
2 章 子ども			10
01 子どもと出会う	A（3）イ	p. 38-39	
02 子どもの心とからだの発達	A（3）ア	p. 40-45	
03 子どもの生活	A（3）ア	p. 46-51	
04 子どもと遊び	A（3）ア	p. 52-55	
05 子どもの育つ環境と社会	A（3）ア，イ	p. 56-59	
06 子どもの権利と福祉	A（3）イ	p. 60-61	
07 子どもと共に育つ	A（3）イ	p. 62-63	
3 章 高齢者			8
01 高齢者を知る	A（4）ア	p. 66-67	
02 高齢社会の現状と課題	A（4）ア	p. 68-69	
03 高齢者の尊厳と自立の支援	A（4）イ	p. 70-73	
04 高齢者を支える制度としくみ	A（4）イ	p. 74-75	
4 章 社会福祉			2
01 生活を支える福祉と社会保障制度	A（5）ア	p. 76-79	
02 共生社会の実現に向けて	A（5）イ	p. 80-83	

5 章 食生活			
01 食べることを通して	B (1) ア (ア)	p. 86-89	12
02 栄養と食品	B (1) ア (ア)	p. 90-93	
03 栄養素のはたらきと食品の栄養	B (1) ア (ア)	p. 94-103	
04 食品の選択	B (1) イ	p. 104-107	
05 食品の取り扱い	B (1) ア (イ)	p. 108-109	
06 食品の安全性	B (1) ア (イ)	p. 110-111	
07 豊かな食生活の背景には	B (1) イ	p. 112-113	
08 食事をつくる	B (1) イ	p. 114-117	
調理実習	B (1) ア (イ)	p. 118-125	
6 章 衣生活			
01 衣生活を見直す	B (2) ア (ア)	p. 128-129	8
02 衣服の機能と着装	B (2) ア (ア)	p. 130-131	
03 衣服の材料と成り立ち	B (2) ア (イ)	p. 132-135	
04 衣服の管理	B (2) ア (イ)	p. 136-139	
05 安心して衣服を着るために	B (2) イ	p. 140-143	
06 いろいろな人が着る衣服	B (2) イ	p. 144-145	
07 これからの衣服	B (2) ア (ア)	p. 146-147	
7 章 住生活			
01 住まいの選択	B (3) ア	p. 150-151	6
02 ライフスタイルと住まい	B (3) ア, イ	p. 152-153	
03 さまざまな家族, さまざまな住まい	B (3) ア, イ	p. 154-155	
04 住まいの安全, 安心	B (3) ア, イ	p. 156-157	
05 住環境の安全, 安心	B (3) ア, イ	p. 158-159	
06 環境共生の今, 昔	B (3) ア, イ	p. 160-161	
07 住まいづくり, まちづくりへの参加	B (3) ア, イ	p. 162-163	
8 章 消費, 環境			
01 お金の問題とライフデザイン	C (1) ア, イ	p. 168-171	10
02 暮らしと経済のかかわり	C (1) ア	p. 172-173	
03 意思決定と契約	C (2) ア, イ	p. 174-175	

04 購入方法の多様化	C (2) ア, イ	p. 176-179	
05 消費者問題	C (2) ア, イ	p. 180-181	
06 消費者保護	C (2) ア, イ	p. 182-183	
07 持続可能な社会をめざして (1)	C (3) ア	p. 184-185	
08 持続可能な社会をめざして (2)	C (3) ア	p. 186-187	
09 消費者市民社会	C (3) イ	p. 188-189	
特集ページ デジタル社会と消費者	C (2) イ	p. 190-191	
生活設計—自分の未来を描く—	A (1) ア, イ	p. 198-199	2
ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	D ア, イ	p. 200-205	
		計	70